近畿方言話者の「アホみたいに」と「バカみたいに」の使用に関する容認度の調査

藤原崇(摂南大学)

1. はじめに

本稿では社会言語科学会大会発表論文の執筆要項について説明する．原稿を執筆する前に必ず目を通すこと．本稿はこの執筆要項に従って書かれている．執筆の参考にして欲しい．
注意：締切後の修正・変更は,一切できません．内容等を十分に確認した上でご提出ください．

2. 先行研究と問題の所在

2.1 アホとバカの分布と用例

「アホ」や「バカ」は全国に広くみられる罵倒表現であるが,類似の意味をもつ表現がどの地域で使われるのかが異なる.現在では「アホ」は主に近畿圏で使用され,「バカ」は近畿圏ではあまり使用されない.松本(1993)によると,こうした「アホ」,「バカ」の属する罵倒系統の表現は主要 23 種に分けることができ,その 23 種は基本的に京都を中心とした同心円状の分布を示すと主張した.松本(1993)は言語周圏論に則り調査を行い,「バカ」は古く京都を中心にして地方へ広がり,その後「アホ」が新しく京都を中心として近畿圏で使用されるようになり,「バカ」の使用頻度が近畿圏低くなった後も,周辺で「バカ」の使用が残ったとしている.

一般的に近畿圏では「アホ」と言う場合に親しみを込めていうことが多く,「バカ」と言われるとキツイ表現であると感じるとされる.（松本 1993 p.20）また近畿圏では「バカ」より「アホ」の使用頻度が高いとされ,「バカタレ」などの表現を除いてあまり使わない.(松本 1993 p.214)

松本(1993)はこの「バカ」と「アホ」の用例についても広く紹介しているが,これらの表現に「～みたいに」が後続する場合の使用例については詳述されてはいない.「アホ」と「バカ」は程度を表す表現としても用いられ,接頭辞として,「ばかっぱやい」や「アホ重い」など,あるいは「～みたいに」を伴って,「とても」や「非常に」といった副詞と同じように強意の意味を表すことがある.例文(1a,b)に示すように,「アホみたいに」,「バカみたいに」は様態ではなく,程度が強い様を表すことがある.

(1) a. アホみたいに安い値段で,この高級時計を買った.（作例）

b. バカみたいにたくさんの宿題が出て,週末が全部潰れた.(作例)

松本(1993)は「アホ」と「バカ」の分布を紹介するなかで,類義の表現として「ゴジャ」,「ハンカ」,「ダラ」,「タワケ」等を挙げているが,「アホ」,「バカ」とは異なり,これらが接頭語や「～ように」を伴って強意の意味をもつ表現として使用される例はコーパス等のデータからはあまりみられない.[1]

2.2 「～みたいに」を伴う表現

「～みたいに」は助動詞「～みたいだ」の連用形だが,菊池(2021)によると,現代日本語書き言葉均衡コーパス 」(BCCWJ)に採録された助動詞「～みたいだ」の用例21,709のうち,11,530が連用形「～みたいに」で全体の53.1%を占める.この連用形「～みたい」に後続する表現についての研究は見当たらないため,類義の表現である「～ように」の特徴を見たうえで,

[1] これらの表現が使用される地域で調査を行ったわけではないので、口語表現においては今後の研究課題としたい。

「～みたい」に後続する表現について考察する.

仁田 (2002) は, 「～ように」という表現が, 一般的には形容詞が示す属性や状態について, 程度の観点からではなく, 様態の観点からその性質を限定する機能を有すると述べている. ただし, 形容詞が示す属性や状態においては, 様態による限定と程度による限定が密接に関連していることも指摘している.

(3) あたりは真昼のように明るかった. (仁田 2002 p. 152)

(3) で示すように, 副詞句「真昼のように」は, 様態を示すと同時に, 「明るさ」という性質の程度をも限定している. このことから, 形容詞が示す属性や状態に関しては, 様態的な限定が結果的に程度性を伴うことが明らかであるとされる.

さらに, 様態副詞については, 程度副詞とは異なり, 共起可能な形容詞がその語彙的意味によって制約を受けるという特徴がある点も論じられている.

(4) 東の空がほんのりと赤い. (仁田 2002 p. 153)

このように, 形容詞との共起関係において, 様態副詞は形容詞の持つ語彙的意味に基づいて選択される傾向があると指摘されている. 「～ように」の特徴を踏まえたうえで, 改めて「～みたいに」の性質を検討する. (3) の例文を「～みたいに」を使用して書き換えると (5) のようになる.

(5) あたりは真昼みたいに明るかった. (作例)

このように, 「～ように」と「～みたいに」の間にはある程度の平行性があると言え, 「～みたいに」にも「～ように」も様態を表し, 共起可能な形容詞がその語彙的意味によって制約を受けるという点についても共有していると推測できる.

2.3 「アホみたい」と「バカみたい」の用例

(1) で見たように, 「アホみたい」と「バカみたい」には強意の意味を持つ用法が存在する. 実際の用例を調査するため「アホみたいに」, 「バカみたい」について BCCWJ を用いて調査した.[2] この調査にあたっては「あほ」の異表記としてひらがな表記の「あほ」, 漢字表記の「阿呆」, 「バカ」のひらがな表記「ばか」, 漢字表記の「馬鹿」で記載されている用例も検索対象に含めている. すると, 「アホみたいに」が 12 例, 「バカみたいに」が 57 例見つかった. 実例数が少ないので, 「アホみたいに」に後続する動詞, 副詞を全て示す. まず, 動詞は「騰がる」, 「しゃべる」, 「頷く」軽動詞の「～する」, 副詞が「ビシバシ」, 「いっぱい」, 「急激に」であった. 次に, 「あほみたいに」について意味の抽象化が進んでいる用例を (6), (7) に示す.

(6) 「ケネディクス」がアホみたいに騰がっておりますけど

(7) アホみたいに声優陣がすげぇーーんすっっ！

(6) にせよ (7) にせよ, 「アホ」に期待される様態を表している表現とはいえず, 程度が甚だしい様を表現している. 抽象化が進んでいないと思われる (8) と比べると, その違いがわかる.

(8) 「ああそう」「へえ」「ふーん」なんって, 僕はアホみたいに頷き, …

(8) における「アホみたいに」は (6-7) とは異なり, 頷く様態を表しており, 程度を表す表現ではない. 次に「バカみたいに」に後続する動詞は, 「出来る」, 「突っ立つ」, 「遣り捲る」, 「聞こえる」, 「澄ます」, 「竦む」, 「騒ぐ」, 「吊る」, 「見える」, 「動

[2] 話し言葉コーパスには用例が発見できなかった。

き回る」,「思える」,「持つ」,「繰り返す」,「打ち込む」,「盛り上がる」,「自慢する」,「泣く」,「懲りる」,さら「～」に動名詞がはいる軽動詞「～する」などが認められた.形容詞は,「広い」,「安い」,「甘い」,「煩い」,「早い」で,副詞は「大量に」,「朝早く」,「頑健だ」,「簡単に」,「明快に」,「一杯」,「沢山」,「チョロチョロ」というものが並んだ.

次に強意の意味で使用されているものの例として(9)を,様態を表していると思われるものを(10)に示す.

(9)　地球の宇宙港ってのはバカみたいに広いし,…

(10)　ふたりは何秒かバカみたいに突っ立っていた.

(9)では「バカみたいに」は「広い」を修飾しているが,バカの様態として広いということは含意されないと思われるので,(10)においては「バカみたい」は意味の抽象化が進んでいるといえる.「アホみたいに」,「バカみたいに」の両方の表現において,意味の抽象化が進んでいる事例が存在することが確認でき.また,この二つの表現において,後続する品詞や,語彙の選好において違いが見受けられることも確認できる.

3. アンケート調査と結果

さらに地域差、特に近畿圏での「アホみたいに」と「バカみたいに」の使用について考えると、「アホ」が多く使用される近畿圏では同じ表現を修飾する場合、「バカみたい」によりも容認度が高くなるのかどうかが疑問として生じる。これを検証するためにアホみたいに」と「バカみたい」の使用における容認度の差についてのアンケート調査を実施した。

被験者は近畿圏出身者 53 名、非近畿圏出身者 18 名の計 71 名の日本語話者で、そのうち明らかに逸脱した回答を行った被験者 1 名を除く[3]、18 歳から 45 歳までの 70 名（男 23 名、女 23 名）のデータを採用した。調査では被験者にフィラー文 16 文、ターゲット文 16 文で計 32 の日本語文を提示し、☆4 つ（まったく違和感を感じない）、☆3 つ（軽く違和感を感じるが，言おうとしていることは簡単にわかる）☆２（強く違和感を感じるが，言いたいことがまったくわからないわけではない）☆１（日本語として全く自然ではなく、許容できない）の４段階で提示された日本語文の容認度を判断してもらった表１に使用したターゲット文と容認度の平均値を示す。

表１．「アホみたいに」と「バカみたい」の容認度調査

No.	ターゲット文	容認度　（4 段階評価）平均値	
		近畿圏	非近畿圏
1	花子はアホみたいに大声で笑っていた。	3.62	3.22
2	太郎はバカみたいに大声で笑っていた。	3.62	3.78
3	昨日はアホみたいにたくさん食べてしまった。	3.60	3.56
4	昨日はバカみたいにたくさん食べてしまった。	3.58	3.56
5	天気が悪いのに、彼らはアホみたいに海で泳いでいた。	3.40	3.28
6	天気が悪いのに、彼らはバカみたいに海で泳いでいた。	3.52	3.56
7	そのアイデアはアホみたいに単純だけど、意外と効果的だった。	3.25	3.22
8	そのアイデアはバカみたいに単純だけど、意外と効果的だった。	3.35	3.39
9	花子はアホみたいに高い靴を買っていた。	3.58	3.33
10	花子はバカみたいに高い靴を買っていた。	3.50	3.56
11	彼の姉はアホみたいに賢かった。	2.87	2.78
12	彼の姉はバカみたいに賢かった。	3.10	3.00
13	その機械の仕組みはアホみたいに単純なものだった。	3.29	2.94
14	その機械の仕組みはバカみたいに単純なものだった。	3.25	3.33
15	花子の作った料理はアホみたいに美味かった。	3.33	2.83
16	花子の作った料理はバカみたいに美味かった。	3.37	3.56

[3] 「花子は半分のパイプオルガンで爆発した」のような明らかに容認できない例文の複数に☆４の評価を与えていた

次に被験者ごとの容認度を基にしてクラスター分析を行った結果、図１のような分布を示し、大きく３つのクラスターに分かれることが分かった。表２は各クラスターの出身と例文の容認度を示している。

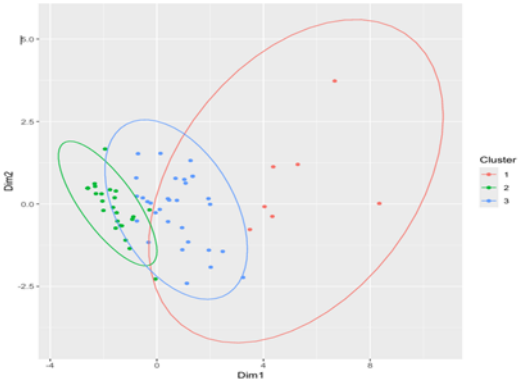

図１．被験者ごとの容認度に基づく散布図

クラスター１は容認度が最も低く、「アホみたいに」を含み例文の容認度平均が 1.96,　「バカみたいに」を含み例文の容認度平気が 2.15 となった。このクラスターに含まれる 7 名のうち 3 名が非近畿圏出身だった。クラスター2 は 32 名で、非近畿圏が 8 名、全体の容認度が 3.82,　「アホみたいに」を含み例文の容認度平均が 3.87,　「バカみたいに」を含み例文の容認度平気が 3.77,　クラスター3 は 31 名で、非近畿圏が 6 名、全体の容認度が 3.19,「アホみたいに」を含み例文の容認度平均が 3.19,「バカみたいに」を含み例文の容認度平気が 3.2 であった。まとめると「アホみたいに」、「バカみたい」にという表現に対して低い容認度を示すクラスター１と比較的容認度が高いクラスター2 とクラスター3 に分かれた。

次に各クラスター内における近畿圏と非近畿圏間の各ターゲット文の容認度を見ると、表２のような結果となった。

表２．クラスターごとの近畿圏と非近畿圏間のターゲット文の容認度[4]

	1		2		3	
sentence/cluster	近畿圏	非近畿	近畿圏	非近畿	近畿圏	非近畿
1	2.00	2.33	3.91	3.56	3.60	3.17
2	2.25	3.33	3.87	4.00	3.60	3.67
3	2.00	2.33	3.87	3.89	3.56	3.67
4	2.00	2.33	4.00	3.89	3.48	3.67
5	2.00	2.00	3.96	4.00	3.12	2.83
6	2.25	3.00	3.91	3.89	3.36	3.33
7	2.25	1.67	3.91	3.89	3.00	3.50
8	2.50	2.00	3.74	3.56	2.92	3.33
9	1.75	2.00	4.00	4.00	3.48	3.00
10	1.75	2.33	3.96	4.00	3.36	3.50
11	1.75	1.33	3.65	3.89	2.80	2.50
12	1.75	1.67	3.35	3.11	2.60	2.83
13	2.00	1.67	3.78	3.56	3.04	2.67
14	1.75	2.00	3.70	3.78	3.08	3.33
15	2.25	2.00	3.96	4.00	3.00	3.67
16	2.50	1.33	3.83	3.33	3.00	2.83

考察と結論

「アホみたいに」と「バカみたい」に対する容認度は個人差の影響が大きく、これらの表現に対して容認度が低いクラスターと基本的にどちらも認めるクラスター、その中間の三つに分かれるが、容認度が低いクラスターと中間クラスターのなかでは近畿圏と非近畿圏で差が見られることが示唆されている。クラスター内では近畿圏出身者が「アホみたいに」に高い容認度を示していることが分かる。

参考文献

菊地礼（2021）．比喩と助動詞の関係―「みたいだ」と「ようだ」― 中央大学博士論文

仁田義雄（2002）．副詞的表現の諸相　くろしお出版

松本修（1993）．全国アホ・バカ分布考：はるかなる言葉の旅路　太田出版

[4] 黄色で示している部分は符号検定で有意な差が出たペア